

令和5年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	12	学 校 名	静岡県立三島北高等学校	校 長 名	松下 明子
------	----	-------	-------------	-------	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	基本的生活習慣の確立と心身の健康の保持・増進、豊かな人間性の醸成	・時間を守るように心がけている生徒 95%以上※ ・整備委員会による環境美化週間の実施 各学期1回 ・生徒による生活キャンペーンの実施 各学期1回 ・挨拶をしっかりと行うよう心掛けている生徒 90%以上※	・（生徒:A）時間を守るように心がけている生徒は 96.3% ・朝読書の時間を守っている生徒 90.2% ・（保健:A）環境美化週間を毎学期実施した。 ・各学期1回、HR代表を中心にあいさつ運動を兼ねて実施した。 ・挨拶をしっかりと心掛けている生徒 89.3%。	A	・昨年度より 0.8%上昇した。概ね生徒は時間を守ることができている。 ・自主的に始める 8:10 着席は三島北高校の風土を物語る大切な伝統であり、その意識は不易なものとして大切にしていきたい。 ・環境美化に対する意識の高揚を図ることができた。 ・生徒と教員が一体となって取り組んだ。次年度も継続して取り組みたい。 ・挨拶の大切さを伝えながら、コミュニケーション能力向上の基礎を構築していきたい。
		・保健だよりの発行 月1回 ・健康観察アプリの活用率 90%以上 ・信頼できる先生がいる生徒 90%以上※	・（保健:A）保健だよりを月1回以上発行した。 ・健康観察アプリを活用して健康状態の把握に役立てた。 ・（全体:B）教員を信頼できている生徒 84.8%。 1年2年3年(ABB)		・自己の健康管理に対する意識の高揚を図ることができた。 ・カウンセリングの実施率は3人の先生方を合わせて 90%以上であった。 ・クリックするだけで相談を申し込むシステムを作り、学期始めのアンケートと併せて、実際に教員への相談やカウンセリングに繋げることができた。 ・昼休みの教育相談室開室は100%に近かった。気軽に来室できるしくみを作り、来室者が増加した。 ・担任の先生を中心に、生徒への声掛けや様子の観察が常時行われた結果だと考える。

様式第 3 号

		・部活動や学校行事に熱心に取り組んでいる生徒 95%以上※ ・図書年間貸出数（4～12 月集計） 2000 冊以上 ・生徒の満足度 90%以上※	・（全体:B）部活動や学校行事に熱心に取り組んでいる 93.2%。 ・（図書:B）12 月までの貸出図書数は 1895 冊 ・（図書:A）芸術鑑賞教室の満足度 99%。		・東海大会、全国大会へ出場した運動部は 2、文化部は 4 であった。より多くの部が高いレベルの大会へ出場できるようお互いに切磋琢磨していく雰囲気を醸成していきたい。 ・4 月の貸出が例年より少なかった。ガイダンスで、新たに導入した新聞記事検索を中心に行ったため、新聞記事検索回数は上昇したが、図書貸出数に影響してしまった。ガイダンスの方法を再考したい。 ・生徒の進路や興味関心等も考慮し、演目を精選していきたい。
イ	確かな学力と幅広い教養の育成に資する学習指導	・理解を深める工夫をしている授業 90%以上※ ・主体的な活動や生徒同士の対話がある授業 90%以上※ ・家庭学習時間平日平均 120 分以上※ 休日平均 200 分以上※	・（全体:B）理解を深める工夫をしている 94.8% ・（数学:B）授業の目標提示、課題や問いを工夫して行うことができた。 ・（保健体育:B）北高組体操（2 人組）など、生徒が自主的に取り組む活動を復活させた。 ・（情報:B）Google の各種機能を利用して、学習に対する連絡事項や資料をアップすることで、授業に対する意識を高めることはできた ・主体的な活動や生徒同士の対話がある授業と答えた生徒 91.7% ・（国語:A）各単元で、主体的活動やグループ等での対話を心掛けた。 ・（地公:B）主体的な活動や対話を行う授業を心掛けることができた。 ・平日は平均 151 分、休日は平均 268 分	B	・（地公）一台端末の利用をもっと積極的に行っていくべきである。 ・（数学）授業で対話活動を取り入れていきたい。 ・（理科）主体的活動について目標に達していなかったため、授業内での課題・問いの改善や I C T 機器の活用を積極的に行っていきたい。 ・（情報）次年度から共通テストの実施が開始されるので、引き続き関係各所から情報を入手しながら教材研究していきたい。 ・（保健体育）グループ活動、対話的授業を構築することで主体的態度を育成したい。声（会話等）を出すことにも着目したい。 ・（英語）理解を深める工夫をしている授業、主体的な活動や生徒同士の対話がある授業の評価が高いため、今後も授業時間で積極的な言語活動を継続させたい。 ・学年ごとに集計しても 2,3 年生は目標値を超えている。1 年生も 12 月に入り、家庭学習調査を行い意識の向上を図っている。

様式第3号

		・校内研修の実施 年3回以上(「学びの基礎診断」の結果分析を含む) ・教育課程検討委員会の開催 年3回以上	・(研修:A)進路課による学びの基礎診断結果分析研修、相談室による発達障害に関する研修、定期訪問時の校内研修を実施し、全職員が参加した。また、年次研修者がチーム研修で10件のワークショップを実施した他、全教員による相互授業見学強化月間(11月)や、授業アンケート(11月～12月)を実施した。 ・職員全体に対し、年度当初にGoogle Classroomの活用に向けた基礎研修を行い、ICTの積極的な活用を促した。 ・教育課程検討委員会を4回開催	・(研修)学びの基礎診断結果分析研修、発達障害に関する研修では、外部の講師を迎えて専門的な知見を全職員で共有した。定期訪問時の校内研修は学校独自でテーマを設定し、校内事情に合った研修を実施した。年次研修者が企画したチーム研修は、年次研修者以外も参加し、充実した。相互授業見学強化月間においては、他教科の授業の参観も活発に行われた。授業アンケートは各教員の実施後に各教科にとりまとめる過程を通じ、教科内での課題の共有に役立った。 ・教員が各自工夫してGoogle Classroomを活用しているようである。次年度はClassiについても、より有効な活用を促していきたい。 ・2年次に文理選択を行う教育課程への変更を決定した。 ・来年度は、学校設定科目の観点別評価が始まるので、引き続き、各教科での検討をお願いしたい。
ウ	高い志と自立の精神に基づく自己実現を支援する進路指導	・将来に対する明確な夢や目標を持っている生徒 70%以上※ ・学校は適切に進路情報を提供していると思う生徒 90%以上※	・(全体:B)将来に対する明確な夢や目標を持っている生徒 59.4% ・(全体:B)適切に進路情報を提供していると思う生徒 82.5%	B ・多様な選択肢があるからこそ目標を絞り切れないというケースが見られる。1・2年次における進路啓発事業を通して見聞を広めると同時に興味のある分野を深め、進路選択における「軸」となるものが持っていると良い。 ・将来への目標が低い。大学進学の後まで意識できるような進路指導、講演等を充実させたい。 ・新課程入試初年度の学年にあたる2年生は、より多くの情報を求めていることも考えられる。2年生の大学訪問は、より大学での学びの様子が分かるような内容を検討する。

様式第3号

		・進路実現に向けて努力している生徒 75%以上※ ・第1志望の大学に出願する生徒の割合 70%以上	・(進路:B)進路実現に向けて努力している生徒 69.8% ・ハイレベル講話に加えて、ミドルレベル講習など学年の生徒の状況に応じて、該当学年の学力層に応じた指導を学年主体で実施した。 ・習熟度に合わせた授業の展開や、苦手な生徒を対象とした放課後講座を開講した。 ・出願状況は記入時点で把握できていないが、国立難関大学を検討している生徒は17名で昨年度の出願人数(5名)を上回っている。1年2年3年(BBA)		・「進路実現に向けての努力」と「将来に対する明確な目標」は表裏一体と言える。総合型選抜や学校推薦型選抜の増加に伴い、低学年時からの進路実現に向けての準備も必要となる。3年次を見通して、低学年時から職業理解関連講座や体験活動への参加、資格取得の奨励に更に力を入れる。 ・3年生は、高い進路目標を維持しつつ進路実現に向けての努力が感じられる。 ・1年部ではハイレベル講習に加えてミドルレベル講習を設定してきた。
エ	課題発見・解決力、論理的・批判的思考力、国際感覚等を備えた人材を育成するための探究的な学び・協働的な学びの深化	・授業が論理的思考力等を高めることにつながっていると答える生徒 90%以上※	・(全体:B)授業に論理的思考力を高める工夫があると答えた生徒 78.5%。 ・学校設定科目でより手厚く指導している生徒だけでなく、総合的な探究の時間の複数のチームが外部のコンテスト等で選考を通過したり入賞したりした。 ・(地歴:B)各科目の授業においてレポート課題を課して、単元ごとのまとめを行った。 ・(数学:A)1つの解法だけでなく、様々な解法を授業で紹介し、多角的に問題をとらえることができるように工夫することができた。 ・(理科:B)ポートフォリオの作成、生徒実験を昨年度よりも多く行い、思考判断表現を高める授業ができた。	B	・(教務)昨年度より2.3%降した。目標値には全く届かず、特に2年生が低くなっている。 ・(研修課)論理的思考力を高めるための授業設計や定期試験の作問における工夫は、どの教科も確実に進んでいるが、生徒に意識させていないケースが多いようだ。生徒のメタ認知に働きかけるさらなる工夫が必要だ。 1年次で多面的なプロポーザルを考察し、2年次でソーシャルビジネスを構想して社会的な課題の解決を目指す総合的な探究の時間のカリキュラムは、完成・充実期を迎えている。一部「タイパ」重視の傾向が強く見られる生徒の気質の変化を教員が共有し、粘り強く、答えのない課題に取組むマインドセットの涵養をさらに推進する必要がある。 ・(3年部)教員の教科指導力をもっとあげ、生徒の期待に応えていきたい。

様式第 3 号

		・英語力や国際性が高まったと考える保護者の割合 60%以上※	・「本校の学びを通して子どもの英語力や国際性が高まった」と回答した保護者は全校平均で 56.3%であった。学年進行でポイントが高くなっており、3 年生では 60.6%を達成した。		・(研修課)「総合的な探究の時間」において、2 年次に全チームが 2 年間の研究成果を英語ポスターとして発表した他、オンライン英会話を 3 回実施した。学校設定科目「海外研修」の 4 年ぶりの現地研修の実施、希望者を対象とした「英語速読・聴解の極意」講座や Global Studies Program の実施など、多様な機会を提供することができた。
オ	家庭や地域等との連携を基盤とした信頼される学校づくり・開かれた学校づくり	・入学させて良かったと答える保護者 90%以上※	・(全体:A)入学させて良かったと答える保護者 91.3% ・数年ぶりに PTA 活動を行い活性化できた。	A	・組織改革、業務内容等、来年度へのスムーズな引継ぎを行う。
		・一日体験入学の参加中学生 1000 人以上 ・情報発信に熱心であると答える保護者 70%以上※	・(教務:A) 一日体験入学に参加した中学生は 1247 人 ・(情報室:B) 情報発信に熱心であると答えた保護者は 69.1%		・一日体験入学、オープンスクールともに、多くの中学生が参加した。 ・部活動のページについて、記事更新ペースが遅れがちのため、結果報告的な簡単なものでも良いので、もう少しペースアップしていけるように工夫したい。
		・地域や社会の課題に対し意識が高まった生徒 60%以上※	・(全体:B) 地域や社会の課題に対する意識が高まったと回答した生徒は 68.5%であった。 ・三島サンパ等地域の行事に参加した。		・地域のイベント参加、奉仕活動等への参加促進を行って地域や社会課題を意識できるような機会を設ける。
		・年 3 回の協議会開催	・5 月、10 月、2 月年 3 回予定通り開催することができた。		・委員の方に文化祭等の学校行事、授業について見学をしていただき生徒の実態を理解していただいた。 ・学校運営に関してそれぞれの立場からの率直な意見を伺うことができた。今後は御意見だけでなく生徒たちの成長に直接関わっていただけるような体制作りを検討したい。
カ	安全・安心な学校につながる学習環境の整備・充実	・いじめや体罰等に関する指導案件なし	・SNS 上での誹謗中傷が 1 件、情報モラル違反によるトラブルが 1 件あった。 ・体罰アンケートを行い、体罰の指導案件はなかった。	B	・スマホ等のルールやマナーの徹底をより強化していく。 ・SNS を通じた人間関係の問題点や、SNS 上でのいじめと思われることが生じたときの対処方法について LHR や講演、相談室だより等で発信する機会を作った方がよい。

様式第3号

		・安全対策がしっかりとできていると答える保護者 60%以上※	・(全体:B)安全対策ができていると答えた保護者 53.8% ・防災訓練を2回行った。		・日々の安全対策を行い事故の起きない取組を進める。 ・防災意識の高揚が図れるよう防災訓練の内容を検討する必要がある。
		・交通事故件数 前年比減 ・AED講習会等の実施 ・ニーズに即した予算の執行	・(生徒:A)交通事故件数は4件であった。(すべて自転車)前年度4件 ・(保健:A)応急手当講習会や熱中症予防講座を実施し、教職員および生徒の安全意識の高揚に努めた。 ・自己の健康管理に対する意識の高揚を図ることができた。 ・施設の点検を週1回以上実施し、ニーズに即した予算を適切に執行し学習環境を整備した。		・事故件数は例年並みだったが、外部から本校生徒の交通マナーについての通報が複数あった。より一層、交通安全意識の啓発に努めたい。 ・運搬法やエビペンの使用法など、身近に起こりうる救護活動を取り扱うことができた。 ・限られた予算の中、計画的な整備が不可欠である。
キ	コンプライアンスの徹底と学校における働き方改革の推進	・教職員の不祥事なし	・職員会議後に定期的にコンプライアンス研修を実施し、職員の意識の啓発を図った。	B	・事例を踏まえた研修を実施し、不祥事防止に向けての心構えや適切な行動について職員全体で考えることができた。また、学期末にテーマを決めグループワークも行った。話し合いをすることで職員間の円滑な人間関係作りにもつながった。 ・今後も適正な事務処理を継続する。
		・時間外勤務時間の減少 ・夏季休暇取得率 100%	・月45時間を超える回数が6回以上の教員24人と昨年度に比べ減少した。 ・定時退勤日や一日の終わりの時間を決めることで少しずつであるが減少に向かっている。 ・夏期休暇の取得率は100%で達成した。		・毎日の勤務時間管理システムの入力により各自の勤務の状況を把握し、改善につなげていきたい。 ・年末に業務改善アンケートを全職員対象に行い、組織・業務の改善を図る観点から洗い出しを行い、具体的な提案に対し各担当・分掌ごとに検討をする予定である。 ・限られた時間の中で効率的に働き、しっかりと休めるような環境を整えたい。